

■ 財務分析 (一日集中 / 6h)

財務理論を学ぶにあたって、その前提となる財務諸表・財務指標分析の基礎知識を学習します。

簿記や仕訳など通常の会計の教科書とは異なり、作図による全体感の把握という手法により、企業評価の3要素(収益性・安定性・成長性)の分析技法をわかりやすく解説します。

単なる数値分析ではなく、数字の裏にある企業戦略とのつながりを推測する眼を養います。

経営視点から、財務会計の本質を短時間で学びたい方、復習したい方にお薦めします。

【講師】 内倉 栄三 (元 ゴールドマン・サックス証券株式会社 投資調査部門 / 投資銀行部門)

【日時】 2024年5月16日(木) 午前10時00分 ~ 午後5時00分 (6時間)

【受講料】 48,000円 (税込)

Session 1&2 決算書(財務三表)の理解 < 180分 >

1. 財務三表の意味: 企業の4つの活動(資金調達、投資、営業、資金分配)を適正に数値化
2. PL・BSを縮尺図にして企業の状態を俯瞰する: 全体感の把握 ~ 何に注目するか?
3. 損益計算書: 5つの利益から会社の特徴を把握し、PLをマトリクス構造に分解
4. 設備投資と減価償却費の考え方とEBITDAの意義
5. 貸借対照表: 大きさや大項目の構成から健全性を把握 ~ 左右を比較するポイント
6. PLとBSの関係: BSは「瞬間のストック」、PLは「期間のフロー」を表す
7. キャッシュフロー計算書: パターンで会社の状況が読める ~ 当年度PL・CF ⇒ 期末BSへのリンク
8. 利益操作の疑いのある不適切な会計: どこに注目するか
9. 財務三表の読み方: PL・BSを縮尺図にして企業の状態を俯瞰する
10. 演習問題: 同業2社の決算書から企業戦略を推測、決算書の特徴から業種・企業を推測

Session 3&4 財務分析の手法 < 180分 >

1. 財務分析のポイント: 「全体感の把握」から「数値分析」へ
2. 収益性分析: 売上に対する利益率、資産に対する利益率 ~ 一番大事なことは?
3. ROA、ROIC、ROEの違いとそれぞれの本質的意義 ~ 一体誰のための指標か?
4. 回転率: どれだけ投資して、どのくらい売っているか
5. 売上に対する利益・費用比率
6. 安定性分析: 短期・長期の適合率、負債と資本の割合、債務返済能力
7. 損益分岐点(BEP)分析: 売上がいくら(何%)になっても、赤字にならずにすむのは?
8. 成長性分析: 売上の成長、マージンの改善 ~ まずは定量的な姿を確認する
9. 収益改善の方法論: デュボン・アナリシス
10. ROICツリー: 他社比較と時系列比較
11. ケーススタディ: 財務分析による経営状況の診断
 - ・ 時系列比較・同業他社比較 ~ 過去を振り返り、各社の中期的な方向性を推察
 - ・ 利益変動要因とセグメント利益 ~ 戦略メカニズム = 有機的つながりのメカニズム

補足講義 財務分析の手法と中期業績計画の策定

1. 中期業績の予想数値作成の手順 (PL ⇒ CF ⇒ BSへのリンク)
2. 業績予想のモデリング
3. 定量的な姿の把握と投資計画の把握
4. 事業計画モデルの作成ポイント: PL(売上・費用)予想、CF予想、BS(右側・左側)予想
5. 事業計画の作成: 前提条件とアウトプット
6. 結果の妥当性確認: 「なりたい姿」との比較 ~ 業績予想とは、ストーリーを数値化する作業のこと